

Y14b

## 全国調査からわかった学校における金環日食に対する取り組みの状況

飯塚礼子（日食情報センター/金環日食調査WG）、篠原秀雄、安藤享平、大越 治、大西浩次、作花一志、塩田和生、塚田健、友田和美、森友 和（天文教育普及研究会・金環日食調査WG）

2012年5月21日の金環日食のピークが月曜の早朝7時半頃であったことから、特に学校においては、児童・生徒の日食観察時の安全確保のために、児童・生徒への事前指導、保護者宛の注意喚起、登校時間の調整や観察会の実施といった措置が必要な状況にあった。天文教育普及研究会・金環日食調査WGは、日食前にこれらの状況について全国調査を実施した。調査は、関係メーリングリストを中心に呼びかけてホームページ上で回答を集める形式とした。日食当日までの回答数は37都道府県から174件であった。集計結果からは、約3割の学校で通常登校であったこと、日食観察会において指導者数が不足している事例が数多くあったこと、観察方法として安全度の高い投影法を使わない学校が約2割あったことなどがわかった。この集計結果は、日食直前に文部科学省で行われた2回の記者発表会（5月11日、5月17日）で報告するとともに、ホームページやMLを通じて公開した。これらの結果は、多数のメディアから報道されたため、日食当日の学校現場における日食対応に、かなり影響を与えた考えられる。本発表では、学校における金環日食に対する取り組みの状況とその分析について報告する。